

法政大学 理系同窓会報

旧・法政大学工学部同窓会報

卒業生66,000名
第14号

■理系同窓会は理工学部・デザイン工学部・生命科学部・情報科学部——4学部一体の組織■ URL:<http://133.25.196.100/>

発行所 〒184-8584 東京都小金井市梶野町3-7-2 理系同窓会 TEL/FAX 042-387-6385 発行人：村主 康和・編集人：会報編集委員会

会長挨拶

同窓会の存在価値とは何か



法政大学理系同窓会 会長

すぐり やすかず
村主 康和 (電気74)

同窓会の存在価値とは？と考えると卒業してから年月が経過した方にとっては集まる場所、年代を超えて語り合える場所になると思います。今年卒業50年を迎えて9月に卒業50年記念行事に参加しました。この時にほぼ卒業してから数十年と会っていない人達とも学生時代に戻ったかのように昔を思い出しながら語り合い楽しい時間を過ごしました。理系同窓会では小金井祭の開催に合わせてホームカミングデーと称して卒業年度に関わらず卒業生の全ての皆様に帰ってくる場所を用意しています。当日はキャリア相談会も開催されているので先生方や現役の学生さんにも大勢参加していただいています。一人だと不安だなと思わずに大勢の中に入っていただくことが出来ます。

ただ若い方には「まだ思い出も不要だし、同窓会に関わる事に意味があるの」と思われているでしょう。その様に考えられ

ている方に強いメッセージを送る事が出来ません。時代も変わり、価値観も変わってきた中で、同窓会とは？を問い続けなければなりません。その時に一つ言えることは法政大学の卒業生であるとの気持ちを持ち続けているかが大事だと思います。

社会に出ると、他大学が徒党を組んでいる感がありますが、法政大学の卒業生は孤軍奮闘の感となっているように思います。そうなるとうちへの帰属意識が遠くなっていくのは致し方ありません。同窓会が集まる場所と言っても帰属意識が遠くなれば行ってみようとの気持ちにもなりません。伝統ある同窓会と先輩諸氏からは言われますが伝統とは単なる継続では無く、変えていくことで価値観を感じていただく事が必要となります。変えていきたいとは書けますが、どの様に変えていけば若い方を引き付けるのか？法政大学への帰属意識を高めていくことが出来るのかを見出すことが現体制で出来るのでしょうか。幸いにも同窓会活動には先生方にもご参加いただいているので、先生方を通して若い方の考えや意見を取り入れる事が必要になるし、若い方が参加していても良いかなと思っただけのように思っています。理系同窓会は集合体組織です。特に学科同窓会は活発にイベントを開催されています。その時に若い方の要望などを聞いていただくのをお願いしたいと思っています。まだ答えがありません。ぜひ若い方のご意見をいただき大きく舵を切ることも必要と思うと同時に、2025年は変革への大きな一歩を踏み出せばと考えています。

大学理事よりご挨拶



法政大学
常務理事・副学長
金井 敦

現在、少子化問題や物価上昇、為替の変動、不安定な国際情勢といった大きな環境変化が大学運営に影響を及ぼしております。そのような中、大学の役割として、学生にとって魅力的な教育を実現し、教育・研究成果を通じて社会に貢献することがますます求められています。経済学部の多摩キャンパスから市ヶ谷キャンパスへの移動が法人として決定され、3キャンパスの今後あり方の検討が進んできております。小金井キャンパスにおきましては、安全で充実した教育・研究環境を維持・発展させるとともに、理系教育・研究の中核としての役割の強化を目指しています。また、理系学部全体としてキャンパスにとらわれずデザイン工学部、情報科学部、理工学部、生命科学部が連携し、多様な研究活動が展開できる柔軟で創造的な理系環境の整備を実現したいと思っ

ております。

2023年に設立された「法政大学理系コンソーシアム」は、卒業生、企業、自治体、大学が一体となり、現代社会が抱える諸課題に対して解決策を提供する重要な役割を担う場として、その存在感を高めています。設立直後にもかかわらず法政大学理系コンソーシアムから法政大学への寄付を実現し、2024年10月からは、理工系大学院生の育成および支援を目的として「法政大学理系コンソーシアム国際会議発表支援奨学金」制度を制定することができました。コンソーシアム設立に際しましては、校友会や理系同窓会の皆様から多大なご理解とご支援を賜りましたことに、改めて深く感謝申し上げます。こうした背景のもと、法政大学は理系同窓会の皆様との連携をますます重視しております。また、2025年3月7日には、法政大学理系コンソーシアムの協賛により「法政大学科学技術フォーラム」を開催いたします。この活動を通じて、理系同窓会の皆様が社会で活躍される中で、現役の学生や教員とともに活動し、大学の競争力を高め、さらなる発展を遂げることを実感しております。

これからも法政大学の理系分野のさらなる発展のために、皆様のご協力とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。理系同窓会の皆様のご活躍とご発展を心よりお祈り申し上げます。

2024年理系同窓会ホームカミングデー

法政大学理系同窓会／一般社団法人 法政大学理系コンソーシアム 理事 佐藤良一 (建築 75年)



2024年11月2日に恒例になっている理系同窓会ホームカミングデーが小金井キャンパスにて開催されました。2005年に第1回ホームカミングデーが開催されてから周年記念事業も含めて今年で18回目のホームカミングデー開催になります。(コロナ禍で2020年、2021年の理系同窓会ホームカミングデーはやむなく中断していますが、長きにわたり継続しています。)

2019年より法政大学理系コンソーシアム主催のキャリア相談会(3年生、M1が主な対象)との共同開催となっています。今年も学生諸君や各企業・自治体・メディアの皆様及び法政大学校友会の皆様、また法

政大学のご協力を得て、およそ400名の参加者により盛大に開催されました。(一方、デザイン工学部向けのキャリア相談会は会場の都合上、10月4日市谷田町キャンパスにて約50社の企業・自治体の皆様、及び約250名の学生参加により開催されています。)

今年も東館学生食堂におけるホームカミングデー懇親会では、一部企業様から持ち寄っていただいた記念品も含め、抽選会で大いににぎわった懇親会になりました。法政大学理系4学部の皆様のご協力を得て、今後ともに発展そして継続されてゆくことが期待されるものと思います。



法政大学理系コンソーシアム 設立一周年のお礼

一般社団法人 法政大学理系コンソーシアム 代表理事 伊藤一之

本コンソーシアムも、この9月に設立一周年を迎えることができました。これまでご支援・ご協力をいただきました皆様、誠にありがとうございました。お陰様で、当初の予想をはるかに上回る規模となりまして、現在、加盟団体数は、企業様、自治体様を含め200団体を超え、さらにキャリア相談会も参加者数が500名に迫る規模の一大イベントとなりました。また、年3回の小金井キャンパスでの開催に加え、デザイン工学部の本拠地である市ヶ谷キャンパス田町校舎での開催も叶い、名実ともに法政大学理系4学部の総力を結集したコンソーシアムとなりました。これまでご参加いただきました皆様、また、企画・運営にご尽力いただきました皆様に改めて心より感謝申し上げます。

会員企業様から頂きました会費、広告費につきましては、その剰余金を原資にコンソーシアムの冠奨学金を設立させて頂きましたので、毎年、この奨学金に組み入れて参ります。早速この秋学期より、国際会議で発表した修士

1年生を対象に給付を開始いたします。多くのご支援をいただきました皆様、誠にありがとうございます。

さて、この一年に渡り、企業様をはじめ様々な方からお話を伺ってまいりましたが、今まさに、時代が大きく変わる節目に差しかかっているように思います。思い起こせば、過去四半世紀に渡り、「お金」がもっとも大切とされた時代を生きてきたように思います。資本力がものをいい、様々な序列が資本の大小に基づいて決まり、利益を追求することが是とされるあまり、そこで働く人々の気持ちが置き去りとなってきました。

しかし、今、その優先順位が「人」に変わりつつあります。すでに、人材が不足している一部の業界では、その変化の兆しが見え始めており、資本の大小によらず、優秀な人材を有する企業が受注する仕事を選ぶ時代となっています。今後も、資本力そのものの重要性は変わらないものの、「お金のある所に人が集まる。お金を持つ側が決定

権をもつ」時代から「魅力的な企業に人が集まり、人がいるところにお金が集まる。人材を有する側が決定権を持つ」、そういった時代へと変わっていくのではないのでしょうか。

本コンソーシアムでは、このような時代の変化を見据え、何よりもまず「人」を中心に置き、ご加盟いただいている皆様のご協力のもと、次世代を担う立派な人材を育成すべく尽力して参ります。そして、彼らが自ら選び進んだ道で努力し輝くことで、ご加盟いただいている企業様、自治体様の発展に貢献し、恩返しをする。そういった正の循環を作ることで、日本全体の活性化にも寄与して行きたいと考えております。

まだまだ、至らぬ点も多々あることと思いますが、今後もコンソーシアムに加盟して良かったと思って頂けるよう尽力して参りますので、是非、コンソーシアムを構成する仲間として共に手を携え、未来を担う学生を支援して頂きますよう、心よりお願い申し上げます。

法政大学理系同窓会 特別賞贈賞 記念企画

東京五輪・パリ五輪
連続出場

青木涼真選手 特別インタビュー

Honda 陸上競技部 / 法政大学生命科学部環境応用化学学科 OB

聞き手

吉田 一郎

理系同窓会 事務局長
法政大学理工学部機械工学科 教授

碓井 正博

理系同窓会
法政大学法学部OB (敬称略)

同窓会旗を持つ青木選手

青木涼真氏(2020年3月卒)は、法政大学在学中に箱根駅伝に4年連続出場し区間新記録を達成するなど活躍され、また、東京オリンピック、パリオリンピックと連続出場を果たされました。本年度2024年度の法政大学理系同窓会の理事会において、この活躍をたたえようという提案があり、慎重な審議の結果、法政大学理系同窓会 特別賞を贈賞することが決議され、2024年11月26日(火)に法政大学 小金井キャンパス マルティメディアホールで贈賞式が開催されました。

法政大学理系同窓会 特別賞は、「文化、スポーツ、学術研究等様々な分野で、日本や世界で活躍されている本学理系学部在学学生、出身者、OB・OG、関係者の方々に、その努力と活躍をたたえること」を趣旨として本年度の理事会で設立されました。青木氏は、この特別賞の第1号となり、特別賞贈賞の記念企画としてこの特別インタビューを実施し、在学中の思い出や現在の状況、将来の夢などについてお話を伺いました。

吉田: 本日は、トレーニングと会社業務のお忙しいスケジュールの中、法政大学理系同窓会 特別賞の贈賞式とインタビューにお越しいただきありがとうございます。

碓井: 私からもお越しいただきありがとうございます。

青木: ありがとうございます。

碓井: 青木選手のごことは、ファンでいつも応援しています。

青木選手が学部4年生の時のこのポスターを家にずっと貼ってあります。箱根駅伝(東京箱根間往復大学駅伝競走)も応援していましたが、東京オリンピックとパリオリンピックの2大会連続出場は感動しました。本日はとても嬉しいです。

吉田: 理系所属でありながら箱根駅伝での活躍も凄かったです。2大会連続出場のオリンピックも本当にすごかったです。私も、青木選手への贈賞を2018年度の理系同窓会の理事会で初めて提案してからですので悲願と言うこともあり、今日は本当に感慨深く嬉しく思います。

青木: ありがとうございます。私もとても嬉しいです。

吉田: それでは、インタビューを始めさせていただきます。法政大学在学中での一番の思い出は何でしょうか?

青木: 箱根駅伝がやはり一番だったかなと振り返って思いますが、「何が」というよりは箱根駅伝の大会に向かってトレーニングしていく過程が、

基本的にずっと楽しかったです。ただ、当時の僕自身としては、箱根駅伝は世間の注目度ほどの大会とは思ってなかったです(笑)

吉田: 法政大学在学中の勉強や研究での一番の思い出は何でしょうか?

青木: 大学時代は、研究室に入ってからの卒業研究がやはり一番大変でした。表現は難しいですが、大学生として『色々なことをやっている・経験しているな』という感じがしました。指導教員の高井先生がよくしてくれましたので、とても充実した卒業研究でした。緑町校舎のマイクロ・ナノテクノロジー研究センターで、一人でパソコンをずっと見て分析をしている時間などが一番覚えていますね。基本的に、僕が試料を作って測定するという形で研究を進めました。試料作製については、僕が作製の方法を変更する必要性がほとんどない状況だったため、ESR(電子スピン共鳴装置)での測定が研究のメインでした。

吉田: 法政大学の良いところはどこでしょうか?

青木: 法政大学の良いところは、自由を学風にしているだけあって、個人の自由を尊重しているところでしょうか。陸上部にも自由な空気感がありました。僕もマイノリティと言うか特殊な境遇でしたけれど、それも一つの個性として扱ってくれたという印象があります。マイノリティとは、体育会の部員で理系学部所属という存在は珍しいですし、理系学部で体育会の部員は珍しいということです。体育会と理系学部のどちらにも同じような境遇の人間はあまりいなかったですが、一つの個性として扱ってくれる自由・尊重が法政大学にはあると思います。

吉田: 理系学部ですと文系学部と比較すると授業が多く、単位取得も大変だったと思います。例えば、実験実習とか1単位科目が多くあるなど、卒業単位を積み上げることが結構大変だったと思いますが、体育会陸上部の活動・トレーニングとの両立はどうだったのでしょうか?

青木: 4年生になるまでに卒業に必要な授業の単位はすべて



賞状



青木涼真選手への法政大学理系同窓会 特別賞の贈賞

取得済みでしたので、最後の4年次は卒業研究だけでした。とは言うものの、その卒業研究が一番大変ではありましたが(笑)。また、体育会の部活で大変でしたが学部・学科の友達もしっかりできていて、自分が小金井キャンパスに行けない場合には友人たちがサポートしてくれていました。大会出場による公欠の時や授業を受けられない時なども助けてくれていたので、小金井キャンパスの友人たちに今でも感謝しています。

吉田:なるほど。真剣に卒研に取り組んだ学生はかなり大変ですが、卒業研究の生活は振り返ると充実していて達成感がありますよね。真剣に取り組めば取り組むほど大変ではありますが(笑)

青木:はい。大変でしたが、充実していましたね。

吉田:研究室に所属する前は仲の良い友達とばかりつるんでいる感じですが、研究室に所属すると仲が良いというほどの間柄でもない人も関わりますよね。研究活動や研究室生活は、その人たちとも結構協力し合いながらやってくという感じで。

青木:そうですね。

吉田:何と言うか、友達というわけではないですが、同じ研究室で一緒に協力し合う仲間・チームといった感じでしょうか。卒業研究という同じ目標を一緒に達成・突破する、まさに仲間という関係ですよ。

青木:はい。そう思います。それと、理系の授業や卒業研究を通して、論理的な思考方法や理系の人間としての物事の考え方が自分の中にすごく根付いていったと思っています。

吉田:東小金井の思い出の食べ物は何でしょうか？

青木:小金井キャンパスの並びにある“一平そば”は、結構行かせてもらっていました。お店の皆さんも僕のことを認識してくれていて、いろいろサービスをしてくれました。それと、箱根駅伝の出場後に“一平”へ行ったらとても喜んでくれました。美味しかったですし、思い出の一平そばです。

吉田:他には何か思い出の食べ物や思い出の場所がありますか？法政大学生協の東館食堂(大学生協の学食)とか。

青木:そうですね、他には大学生協の学食にかなり行っていました。食事は、学食か一平そばのどちらかが多かったのですが、学外の東小金井周辺ですと一平そばぐらいしか行ってないですね。

吉田:東館の学食では何を食べていましたか？思い出のメニューなどは？

青木:僕はうどんが好きなので、釜玉うどんの大盛りと、鯖の塩焼きか鯖の味噌煮のどちらかをいつも食べていました。タンパク質と炭水化物の組み合わせですね(笑)

吉田:なるほど、そうだったんですね(笑)わかりました、では生協に「釜玉うどん大盛り&鯖の塩焼き or 味噌煮のセット」を青木涼真選手の好物メニュー・推薦メニューとしてPRしてはどうかと提案してみますね(笑)

青木:ありがとうございます(笑)その組み合わせはめちゃくちゃ食べていましたね。学食に行った時は、9割くらいその組み合わせを食べていました(笑)

吉田:法政大学理系同窓会には入会されていますか？

青木:はい。入会しています。

吉田:キャリア相談会には参加されたことはありますか？毎年開催している「キャリア相談会」は、2018年度に法政大学理系同窓会が主催したのが第1回目です。青木選手が



青木選手とファンの在学学生(法政タオルは在学学生が持参)

ちょうど学部3年生として在学中の年で、前回私が1回目の事務局長だった時期にあたります。

青木:残念ながら、キャリア相談会には行ったことはないですね。僕は、もう3年生になる時ぐらいには実業団に進むことを決めていたので。

吉田:そうですね。現在、青木選手は本田技研工業株式会社の社員ですし、法政大学の理系学部からは本田技研工業に毎年多くの卒業生が就職していますので、ぜひ「キャリア相談会」に企業人としてお越しください。「キャリア相談会」の第1回は、前学部長の電気電子工学科の伊藤一之先生と自分と2名だけで企画・準備をしましたが、2018年度から今年の2024年度まで続いていて現在は規模も大きくなり企業の方にも好評ですので、後輩たちの人生相談・指導と思ってぜひご参加いただけると嬉しいです。

法政大学在学中の思い出の大会は何でしたでしょうか？

青木:箱根駅伝以外でしたら、関東インカレ(関東学生陸上競技対校選手権大会)です。関東インカレがきっかけで実業団に行くこと決めましたので思い出深い大会です。

吉田:実業団に入ることを決めたと聞きましたが、どういった考え・経緯からですか？

青木:学部2年生の時に出場したトラック競技の3000メートル障害で優勝しました。その3000メートル障害は、2年生・3年生と連覇し、4年生の時は2位でしたが、トラックで戦う楽しさが常にありました。もちろん箱根駅伝はチームとして目指してたものだったのでそちらも頑張りましたが、個人としてはトラック競技である3000メートル障害を続けたいと考えましたので、実業団に進むことを決めました。

碓井:高校時代も3000メートル障害でしたよね？

青木:はい、そうです。高校は2年3年のころです。本格的に始めたのは高校3年生からで、3年生の時にインターハイ(全国高等学校総合体育大会)で8位に入賞しました。

吉田:そうですね。それが今に繋がっているんですね。では、次の大会への意気込みをお願い致します。

青木:直近ですと、2025年1月1日のニューイヤー駅伝です。Honda陸上競技部として、またチームとして優勝を狙っています。日本で長距離選手である以上、駅伝で戦うことは避けては通れないと思っています。この駅伝のおかげで競技を続けさせてもらっている部分もありますので、トラック競技だけではなく駅伝でもしっかりと結果を出したいなと思っています。また、来年2025年は東京で世界陸上(世界陸上競技選手権大会)があるため、この世界陸上2025の3000メートル障害の決勝でどのような走りをするか、ということを考えながらトレーニングに取り組んでいます。

吉田：なるほど、力強い意気込みですね。では、次のオリンピックはどうでしょうか。

青木：オリンピックについては、ロサンゼルス大会も目指していますし、もちろんそのロスの次のブリスベン大会まで競技を続けていきたいと考えています。まだまだ競技を続けて、世界大会に出場し続けるつもりでいます。

吉田：力強い言葉、ありがとうございます。

碓井：青木選手ご自身としては、将来、指導者の道に進まれることは選択肢にありますか？指導者になるとは言っても、色々な条件とかタイミングなどが重なってのことだとは思いますが。

青木：本当におっしゃる通りで、結構タイミングが大事な仕事ですので『どうなるのかな？』という思いはあります。もちろん指導者への選択肢への思いはすごくあって、大学生も見たい（指導したい）ですし、社会人も見たいですし、トラック競技も見たいし、駅伝も見たいです。このように多くの夢がありますが、どの選択肢を選んでも仕事としてきっちりとこなし、また、生活の事もあるので生業としても考えながら、しっかり道を選びたいと思っています。また、もし指導者になるのであれば、希望としては『全部見たい』と思っています。例えば、Hondaに所属しながら大学でも指導したいとも考えていて、指導者として柔軟な形態で仕事をさせてもらえないかと考えています。例えば、『特例として青木だったらいいぞ・構わない』と言ってもらえるレベルまで、今は実績を積み上げることが将来の希望を達成する近道ではないか、と思っています。今はそのためにも競技を頑張っています。もちろん、陸上界に残らない選択肢もまた面白いなと思ってる部分もあります。

吉田：なるほど。現役が終わっても夢が膨らみますね。私も明治大学と長岡技術科学大学の助手・研究員を経た後、約9年間の(株)小坂研究所という中小企業勤務を経て法政大学の専任教員になったという経緯があり、他の人と比べて若干珍しいと言う点が青木選手と共通していますが、人それぞれ色々な道や選択肢がありますよね。個人的には、将来、青木選手が法政大学の専任教授になってくれる

と嬉しいです。例えば、法政大学の専任教授になって、複数の実業団の指導に行くなどもできると思います。また、特任教授という選択もあると思います。逆に、Honda所属で、複数の大学の陸上部に指導に行くなども選択肢にあると思います。この場合、私個人としては法政大学の専属になってくれるのが嬉しいですが（笑）

碓井：色々な道・選択肢が有ると思いますが、でも本当に、法政大学や理系同窓会のみならず青木選手が法政大学の陸上部の指導をしてくれることを夢見ていると思いますよ。

吉田：最後に、法政大学理系学部OBとして、法政大学理系学部の後輩・在学生たちにエールをお願いいたします。

青木：僕は、色々なことが重なり陸上という競技でたまたま現在の状況になったのですが、振り返ると“何者かになる”ために、ここまで結果としてはやってきたのかな？という様に思っています。人と同じとかそういうものをやるのではなく、“自分だからできること”や“自分が好きなもの”を極めていく先に“何者かになる”チャンスが転がっていると思います。例えば、それが研究や勉強でも良いと思いますし、それらとは全然違う自分だけの強みでも良いと思いますので、そういう部分を活かしていくが面白いのかなと思います。楽しみながら“自分がどういう人間になれるのか・なっていくのか”というビジョンを持って努力続けていけたら、皆さんの思い描いていた大人・人生になっていくのではないかと思います。

吉田：好きな気持ちとか、自分がやれることを見つけて努力を続ける。また、過程を大切に一生懸命やっていけば到達できる、と言うことですね。在学生への力強いエールありがとうございました。

(取りまとめ、反訳：吉田一朗)



記念ペナントと
青木選手の名入リタスキ着用のえこびよん



特別賞の副賞と記念品を持つ青木選手



記念撮影

“第30回 法政大学全国卒業生の集い 秋田大会” 私の思い出

法政大学理系同窓会 理事 高橋 敏男 (建築72)

令和6年10月16日(土)の秋空の下、あきた芸術劇場ミルハスを会場に式典、秋田キャッスルホテルを会場に懇親会が開催されました。

第一部の公開講演は、法政大学応援団により卒業生の心を揺さぶる“映像による校歌とエール”から始まりました。



秋田大会の映像による字幕 応援団によるエール

秋田大会実行委員会委員長川上清一様の開会宣言を受け、廣瀬克哉総長が「法政大学と持続可能な社会の未来への取り組み」と題して講演いたしました。



講演中の廣瀬克哉総長 会場のあきた芸術劇場ミルハス

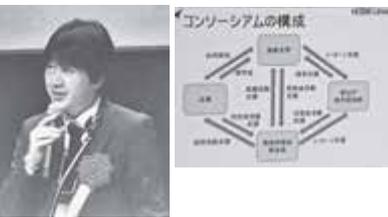
今回は地元秋田県の高中生や教職員に法政大学を宣伝する絶好の機会となり、幹事のご配慮に感謝したいと思います。私は3階席に居たので高校生の姿は直接拝見することは出来ませんでした。教師共々何組かが参加されていたようです。続いて卒業生で現自民党副総裁の菅義偉様のビデオメッセージをいただきました。

また校友ゲストとして秋田市出身で映画・CM監督、第47回日本アカデミー賞優秀監督賞受賞者の成田洋一様講演されましたが、彼はお嬢さんと旅行中だったところ、急に呼び出され講演することになったそうです。これも秋田県校友会の先輩後輩の強い繋がりを感じさせる本当に喜ばしく羨ましい出来事でした。



成田洋一様

そして「理系コンソーシアム」の取り組みについて一般社団法人 法政大学理系コンソーシアム代表理事の伊藤一之教授が映像を交え丁寧に解説されました。



法政大学理系コンソーシアムの主旨を説明する伊藤一之理工学部長

昨年9月1日誕生した理系コンソーシアムは、早くも一年が経ちました。活動の成果が出てくることと思いますので、ご期待いただくと共に卒業生の皆様には、益々のご協力をいただきたいと思ひます。

そして第二部の式典は、一般社団法人法政大学校友会会長の竹中宣雄様から大会主催者挨拶をいただき、秋田県校友会会長の渡辺光様から歓迎の挨拶をいただきました。また祝辞は廣瀬総長と秋田県副知事猿田和三様及び秋田市長穂積志様、そして法政大学後援会会長の地頭江正美様からいただきました。



(一社)法政大学校友会 会長竹中宣雄様

続く第三部の懇親会は秋田キャッスルホテルに会場を移し、盛大に行われました。秋田県校友会特別顧問の北嶋正様、来賓代表挨拶は工学部建築学科卒業生で秋田県議会議長北林丈正様にいただきました。また来賓紹介の後、秋田県校友会副会長宮腰誠様に乾杯の挨拶と乾杯の音頭を取っていただき、和やかな食事・歓談に入りました。アトラクションは、「なまはげ太鼓」「西馬音内盆踊り」「法政大学応援団演奏」が繰り出され、会場は笑い拍手の嵐の連続でした。



なまはげ太鼓 西馬音内盆踊り

そして最後の式典は秋田県校友会から福岡県校友会への引き継ぎ式です。このような晴れやかな場面と賑やかで和やかな同窓生の集いはやがて、参加者一同が肩を組み繋がり、晴れやかに大きな声で歌う「校歌斉唱」で締めくくられました。ご存じのとおり、次回は福岡大会です！



懇親会場の様子① 懇親会場の様子②

※ちょっと残念なことがありました。佐竹の殿様は水戸から移られたので、この機会に佐竹藩主に関わることを調べたいと思っていたのですが、生憎、資料館が改修工事中で閉館していました。

“百聞は一見に如かず”です。次年度の福岡大会には是非、参加して“法政の今”を実感してください。

翌日のエクスカッションでは、私はAコース「角館・田沢湖観光コース」に参加しました。秋田市中土橋前から8時15分にバスが出て、10時前に田沢湖に到着、ここで40分間遊覧船に乗船して青く澄んで静かな湖面と周辺の山々を目に焼き付けました。紅葉を期待していたのですが今年は暑さが続いたためでしょうか、まだ全山紅葉とはなっていませんでした。



田沢湖地図



田沢湖の湖面

たつこ像

なおこの湖で水上バイクから転落し亡くなった知人(I)の甥がいたのでクルーに訊ねたところ、あのあたりですと指で指し示してくれました。その後のことは文字には書けませんが、思い出の一つになりました。きっと“たつこ像”が見守ってくれていることと思ひます。



青柳家屋敷内にて①

青柳家屋敷内にて②



青柳家屋敷内にて③

青柳家屋敷内にて④

人体解剖図絵

その後、角館百穂苑で昼食(栗ご飯)を摂り、角館武家屋敷見学・青柳家歴史探訪と回りました。

私は足を早めて、大江宏設計の樺細工伝承館に行きました。学生時代に拝見した背が高く痩身で、しかも声のしっかりした



樺細工伝承館外観

樺細工伝承館玄関

大江宏教授のことを思い出しながら、何故か立ち姿が大江宏教授にそっくりな建物でした。



樺細工伝承館内部①

樺細工伝承館内部②

樺細工伝承館内部③

学部長挨拶



理工学部長
安田 彰

2024年4月に理工学部長に就任いたしました安田と申します。私は1988年に法政大学大学院を修了し、民間企業を経て、2001年に工学部電気電子工学科に着任いたしました。

大学卒業後のこの30年間、社会全体としては大きな成長が見られない状況が続いて

おります。しかし、産業分野ごとに目を向けると、成長を遂げた企業や衰退した分野が存在することが分かります。成長した企業は、市場のニーズを先取りし、求められる技術や製品の開発に成功しています。同窓会員の皆様は、この時代の変遷を肌で感じてこられたことと思います。

これからの10年を見据えると、付加価値の高い分野への労働移動が不可欠です。そのためには、特に理工系学部の大学が果たす役割が重要となります。理系分野の発展とその活用なくして、今後の社会の発展は望めません。これまでに存在しなかった製品やサービスを創出する新たな産業の興隆には、理系分野の知識と、何より情熱が必要でしょう。学生たちには、日々自ら深く考えることの重要性を伝えております。

2025年3月7日には、「法政大学科学技術フォーラム」を開催いたします。このフォーラムでは、学生が自身の研究成果を発表し、卒業生や企業の皆様とディスカッションを行います。同窓生の皆様には、ぜひご参加いただき、これまでのご経験に基づくご意見を賜れば幸いです。学生のアイデアと皆様のご助言の相互作用により、新たなテクノロジーを創出し、それを実現する場を提供したいと考えております。回を重ねるごとに、参加者や参加企業も増加しております。

学部長に就任し、幅広い分野でご活躍されている法政大学の同窓会員の皆様の多さに感嘆しております。今後とも、皆様からのご指導とご支援を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。



生命科学部長
濱本 宏

2024年4月より新たに生命科学部長に就任しました濱本宏です。私は、生命科学部が設立された2008年に兼任講師として学生の教育に参加し、そして2010年より専任教員として生命科学の教育、研究に携わっております。ふと気が付けば小金井キャン

スでの勤務が15年となり、大学を卒業して以来企業や研究所、大学など行き来する人生の中で、最も長い時間お世話になっているのが法政大学生命科学部となりました。東日本大震災とその後の非常事態や新型コロナウイルス感染症の発生とそれに伴う非日常を、小金井キャンパスで同僚や学生とともに経験し、乗り越えてきました。また、その間にキャンパスの建物も変わりましたし、東小金井の駅と駅の周りも大きく変わり、多くの教員は昔を知らなくなってきました。思い出すと私が就任した時は、もっと昔を知る工学部時代からの先生方にキャンパス内の学部横断の委員会や、あるいは大学院の会議などの場で本当にいろいろと、逸話や武勇伝を含め教えていただきま

した。私も、いろいろなことを語る側になってきたのかと思います。そして学部長として、昔を振り返りつつ若い世代と未来を考える立場になったと自覚します。

時代は急速に変わっています。新しいテクノロジーが次々に現れます。2024年ノーベル化学賞の対象であるタンパク質立体構造の精確予測は、少し前まではいつまでも追いつける実現することない夢かと思っていました。遅れないようにしなければなりません。法政の未来を築くためには、ともに昔を知り、それぞれの立場で活躍される卒業生の皆さんとの語り合いが必要と考えます。今後ともどうかよろしくお願ひします。



情報科学部長
尾花 賢

2024年はノーベル賞物理学賞、化学賞ともにAI分野の研究が受賞となり、また日々のニュースでも毎日のように生成AIに関する話題が取り扱われるなど、まさにAIに沸いた一年になりました。法政大学でも

全学部の学生を対象に「法政大学数理・データサイエンス・AIプログラム (MDAP)」を開講し、2021年秋学期にはリテラシーレベルの科目を、2022年度秋学期には応用基礎レベルの科目を開講し、データサイエンスやAIを活用して新しい価値を創造できる人材、持続可能な社会の構築に寄与できる人材の育成に努めています。

AIに限らず、情報技術の発展のスピードは目を見張るものがあります。あらゆる分野で情報技術が不可欠となっている現代社会において、学生だけでなく、大学を卒業して既に社会の一線で活躍されている方々からも情報技術を一から、あるいは改めて学びたいというニーズが顕在化してい

ます。このニーズに応えるため、情報科学研究科では「情報科学・データサイエンス・AI履修証明プログラム」を開講しています。社会の方々も参加できるようにオンライン・ハイフレックスで受講できる授業や、夕方開講の授業も多く提供していますので、理系同窓会の会員の皆様もぜひこのプログラムをご活用頂きますと幸いに存じます。

情報科学部は2000年に創設され、来年度で学部創設25周年を迎えます。来年度は小金井祭期間中に25周年のイベントを予定しており、多くのOB・OGの皆様にお目にかかれることを楽しみにしております。



デザイン工学部長
岩月 正見

2024年度は、コロナ禍の不便さや制約から完全に解放され、学生たちは自由に活気ある日常を取り戻しました。しかし、国際情勢の不透明感や物価高など、私たちを取り巻く環境は依然として厳しく、学生や教員の教育や研究環境にも少なからず影響を与えています。また、科学技術はこれまで

にないスピードで進化し、特に生成AIの登場は教育や研究の方法そのものに大きな変革をもたらし、従来の価値観を揺るがしています。

このような時代において、デザイン工学部では、急速に変化する社会の課題に向き合いながら、持続可能な未来を目指したデザインと工学の融合を追求しています。デザインは単に形を作る行為ではなく、課題を解決し、新しい価値を創造する営みです。その探求を支えるのが、本学部のユニークで優秀な教員や、意欲的な学生たちです。彼らは社会基盤から住環境、人工物に至るまで、多様な分野で新たな視点を取り入れ、より良い未来を築くために日々取り組んでいます。

また、デザイン工学部の各学科のサイ

をご覧いただければ、教員の卓越した実績や豊富な社会活動を確認できるだけでなく、未来を担う学生たちの活動ぶりにも触れることができます。学生たちはプロジェクト学習や実地研究などを通じて多くの実績を積み重ねており、社会からの期待もますます高まっています。

皆様、先輩方が築いてきた伝統は、次世代に確実に受け継がれ、さらなる発展へと繋がっています。

これからもデザインと工学の力を駆使し、人間生活をより良いものにし、持続可能な社会の実現に向けて新たな価値を創り出していきたいと考えています。そのためにも皆様の変わらぬご支援とご助言を心よりお願ひ申し上げます。

理系4学部 専任教員 研究・教育活動に対する受賞・表彰者一覧

学部	教員名	所属等	受賞年月日	受賞名、授与機関等、受賞・表彰概要	
理工学部	相原 建人	機械工学科 准教授	2023/5/25	自動車技術会賞 論文賞 連続可変剛性動吸振器の開発と性能解析	自動車技術会
	吉田 一郎	機械工学科 教授	2023/7/15	第3回 2023年度 精密工学会 精密工学会誌インバクト賞 表面粗さ—その2: ちょっとレアな表面性状パラメータの活用方法— (査読付き解説論文)	公益社団法人精密工学会
	伊藤 一之	電気電子工学科 教授	2023/12/7	Best Paper Award in Biomimetics Finalist 生物の身体の仕組みをヒントに、柔軟な機構で構成された多脚型のロボットを開発	The 2023 IEEE International Conference on Robotics and Biomimetics (ROBIO 2023)
	岡本 吉史	電気電子工学科 教授	2023/6/7	令和4年度 表面3部門 若手研究 優秀賞 シグモイド関数を採用した勾配法 (SiGrad) による永久磁石の未着磁領域の推定	日本非破壊検査協会 表面 NDT ワークショップ 2023
	鳥飼 弘幸	電気電子工学科 教授	2023/5/22	Best Track Manuscript Recognition—Second Runner Up A Novel Integrated Cochlear Model Based on Ergodic Sequential Logic Dynamics: Reproduction of Mammalian Nonlinear Sound Processing and Efficient FPGA Implementation	IEEE CAS Society Flagship Conference ISCAS2023
	中野 久松	電気電子工学科 名誉教授	2023/10/31	プレナリー講演者感謝賞 "Radiation Field from a Metaloop Antenna with a Traveling Wave" 和訳「進行波を有するメタループアンテナからの放射界」	アンテナ国際シンポジウム (ISAP)
			2023/11/3	瑞宝中綬章 公務等に長年にわたり従事し、成績を挙げた	内閣府
	五島 洋行	経営システム工学科 教授		Graduate Student Paper Competition Awards	The 4th Asia Pacific International Conference on Industrial Engineering and Operations Management
	作村 建紀	経営システム工学科 専任講師	2024/1/7	2023年度 スポーツデータサイエンスコンペティション・野球部門入賞 調子の良否を含む打者の新たな能力評価指標	日本統計学会 スポーツデータサイエンス分科会
	小宮山 裕	創生科学科 教授	2024/3/12	欧文研究報告論文賞 Cosmological constraints from cosmic shear two point correlation functions with HSC survey first year data	日本天文学会
松尾 由賀利	創生科学科 教授	2023/12/9	日本量子医科学会第3回学術大会優秀発表賞 HIMAC 施設2次不安定核ビームを利用した超流動ヘリウム中不安定核原子の超微細構造精密測定手法開発	日本量子医科学会第3回学術大会	
生命科学部	木口 崇彦	環境応用化学科 助教	2024/3/17	最優秀賞 I-HDF における逆濾過による膜洗浄効果の走査型プローブ顕微鏡を用いた評価	第39回日本ハイパフォーマンス・メンブレン研究会
	北村 研太	環境応用化学科 教務助手	2023/9/11	粒子流体プロセス部会 シンポジウム賞 (奨励賞) リチウムイオン電池やレドックスフロー電池の電極スラリーを対象に、固練り条件がスラリー特性に与える影響を解析	化学工学会第54回秋季大会
	森 隆昌	環境応用化学科 教授	2024/3/29	TANAKA Special Award 貴金属粒子の回収・リサイクルの促進に關係する研究	田中貴金属記念財団「貴金属に関わる研究助成金」
	渡邊 雄二郎	環境応用化学科 教授	2023/8/30	令和5年度学会表彰奨励賞 ゼオライトを用いたセシウムイオンの回収・安定化に関する研究	環境放射能除染学会
	大島 研郎	応用植物科学科 教授	2023/7/19	Robert F. Whitcomb award ファイトプラズマのゲノムを世界で初めて解読し、その結果それまで生命にとって必須と考えられていたATP合成酵素さえも失うなど、ファイトプラズマが顕著に退行的進化を遂げた特殊な微生物であることを明らかにした	国際マイコプラズマ学会
情報科学部	廣津 登志夫	コンピュータ科学科 教授	2023/5/1	論文編集貢献賞 同学会が発行する情報処理学会論文誌コンピューティングシステム (ACS 論文誌) において、編集委員 (2005~2008年度、2011~2014年度)、編集副委員長 (2009~2010年度)、編集委員長 (2021年度~2022年度) を務め、論文誌の編集に貢献	情報処理学会
	高村 誠之	デジタルメディア学科 教授	2023/7/4	Fellow "the top scientist with outstanding achievements in the area of visual and multimodal data coding" という理由で、映像およびマルチモーダルデータ符号化の分野において優れた成果を上げているトップサイエンティストと認められた	Asia-Pacific Artificial Intelligence Association (AAIA)
2023/11/2			Certificate of Appreciation "for leadership and dedication to the activities of the Industrial Relations and Development of the Asia-Pacific Signal and Information Processing Association" という理由で、本活動で果たしたリーダーシップと貢献が認められた	Asia-Pacific Signal and Information Processing Association (APSIPA)	
デザイン工学部	赤松 佳珠子	建築学科 教授	2023/4/19	2023年 日本建築学会作品選奨 共愛学園前橋国際大学5号館 KYOAI GLOCAL GATEWAY	一般社団法人日本建築学会
			2023/5/19	第49回東京建築賞 一般部門・I類 優秀賞 ROPPONGI TERRACE	一般社団法人東京都建築士事務所協会
	網野 禎昭	建築学科 教授	2023/6/3	第26回木材活用コンクール優秀賞	日本木材青年団体連合会
	宮田 雄二郎	建築学科 准教授		国産大径木製材を有効活用した住宅「バウマイスターの家」	
	安藤 直見	建築学科 教授	2023/6/10	日本図学会賞 建築分野における図学に関する教育・研究・制作活動	日本図学会
2023/10/5			2023年度グッドデザイン賞 小規模街区「黒門町の街並みと小さな広場」	公益財団法人日本デザイン振興会	
川久保 俊	建築学科 教授	2023/9/27	第17回キッズデザイン賞・キッズデザイン協議会会長賞 「ALL FOR THE NEXT」次世代へ紡ぐ小国町の新しいまちづくり	特定非営利活動法人キッズデザイン協議会	

学部	教員名	所属等	受賞年月日	受賞名、授与機関等、受賞・表彰概要	
デザイン工学部	小堀 哲夫	建築学科 教授	2023/1/1	International Design Awards (IDA) 2022, Silver	International Design Awards
			2023/12	Architecture MasterPrize (AMP) 2023, Best of Best	Architecture Master Prize
			2023/12/16	大和ハウスグループ みらい価値共創センター「コトクリエ」	
				自由を生き抜く実践知大賞	法政大学
	佐々木 睦朗	建築学科 名誉教授	2023/7/10	The Torroja Medalists	IASS (International Association for Shell and Spatial Structures)
				シェル空間構造の設計、建設、研究に対する卓越した貢献/(1) 瞑想の森 市宮斎場 (2) 豊島美術館 (3) Rolex ラーニング・センター	
	高村 雅彦	建築学科 教授	2023/4/18	査読功労者表彰	日本建築学会
	今井 龍一	都市環境デザイン工学科 教授	2023/5/24	第23回 舗装技術に関する懸賞論文 研究開発部門 優秀賞	日本道路建設業協会
				建設機械搭載型レーザスキャナの開発および舗装の BIM/CIM への活用	
	内田 大介 森 猛	都市環境デザイン工学科 教授 都市環境デザイン工学科 名誉教授	2023/5/15	令和4年度土木学会賞田中賞(論文部門)	公益社団法人土木学会
				溶接止端に留まる疲労き裂が生じた面外ガセット溶接継手に対する UIT の補修効果	
	道奥 康治	都市環境デザイン工学科 教授	2023/6/9	令和4年度土木学会賞功績賞	公益社団法人土木学会
	安積 伸	システムデザイン学科 教授	2023/10/5	2023年度グッドデザイン賞 グッドデザイン金賞(経済産業大臣賞)	公益財団法人日本デザイン振興会
				【製品名】 nodoca (感染症判定 AI 咽頭カメラ)	
審査委員特別賞				ジャパン・ツバメ・インダストリアルデザインコンクール	
大西 景太	システムデザイン学科 教授	2023/11/6	DNP 大日本印刷賞	新千歳空港国際アニメーション映画祭	
			新千歳空港国際アニメーション映画祭において、制作したアニメーション作品「北海道民謡 江差追分」		
姜 理恵	システムデザイン学科 教授	2024/1/19	JICSB Open Access Award #1 / Most Popular Session Award / 2023 Mini Globe Award (ICSB 殿堂メンバーに選出)	International Council for Small Business	
姜 理恵 土屋 雅人 田路 則子 山田 泰之	システムデザイン学科 教授 システムデザイン学科 教授 経営学部市場経営学科教授 システムデザイン学科 准教授	2024/2/13	「大学研究者による事業提案制度」事業採択と都知事による感謝状贈呈		
			東京都の小学生から大学生まで一貫したアントレプレナーシップ教育を行う「東京の未来を拓く起業家教育循環システムプロジェクトを実施する提案		
			東京都の小学生から大学生まで一貫したアントレプレナーシップ教育を行う「東京の未来を拓く起業家教育循環システムプロジェクトを実施する提案		
			東京都の小学生から大学生まで一貫したアントレプレナーシップ教育を行う「東京の未来を拓く起業家教育循環システムプロジェクトを実施する提案		
山田 泰之	システムデザイン学科 准教授	2023/12/22	ココヨデザインアワード 2024 ファイナリスト	ココヨ株式会社	
				「文具の素」3D プリントを活用して何か専用の文具をつくるための文具のコア部品	

理系4学部の受賞記録(2023年4月1日～2024年3月31日)より参照

機械のレンタルで私達のまちづくりのお手伝いをいたします!



建設・産業機械 レンタル・販売・商品開発

代表取締役社長

瀧 哲也

平成3年工学部卒

瀧富工業株式会社

〒451-8701 愛知県名古屋市中区こも原町148番地

TEL 052-501-3188 FAX 052-501-2471

URL <http://www.takitomi.co.jp>

(営業所)常滑・静岡(浜松)・三河・岐阜・飯田・中津川(出張所)尾鷲

理系同窓会 理事
法政大学理系コンソーシアム 理事長

伊藤 一之

計測 1996年卒

〒184-8584 小金井市梶野町3-7-2

TEL 042-387-6385

<https://www.khosei.ac.jp/ito/>理系同窓会事務局
法政大学理系コンソーシアム 事務局長

碓井 正博

法律 1984年卒

〒184-8584 小金井市梶野町3-7-2

TEL 042-387-6385

理系同窓会

相談役 岡本 眞

建築 1970年卒

一般社団法人 法政大学校友会

学部協議会ブロック理事

E-mail maxokamoto666@yahoo.co.jp

法政大学

常務理事/副学長 金井 敦

〒102-8160 千代田区富士見2-17-1

TEL 03-3264-9220

理系同窓会 相談役
法政大学理系コンソーシアム 理事

佐藤 良一

建築 1975年卒

〒184-8584 小金井市梶野町3-7-2

TEL 042-387-6385

理系同窓会

会長 村主 康和

電気 1974年卒

〒184-8584 小金井市梶野町3-7-2

TEL 042-387-6385

理工学部・生命科学部・情報科学部・デザイン工学部 新任教員の研究紹介



理工学部
機械工学科
教授

加藤友規

2024年4月に理工学部機械工学科に着任いたしました。本学着任前は、大学院を修了した2004年から計20年間、現在の東京都立産業技術高等専門学校と福岡工業大学において専任教員として勤務しておりました。専門分野のキーワードとしては、デジタルエンジニアリング・フルードパワーシ

ステム・アクチュエータ・超精密位置決め・生産加工などとなります。

前職の福岡工業大学では、英国ノッティンガム大学での1年間の在外研修や米国西海岸での教職協働研修を経験させて頂いたことを含め、米国・英国・タイ・マレーシア・インドネシア・中国などにある海外大学と連携した教育・研究を実施して参りました。

法政大学と福岡工業大学は2024年3月に「教育に関する連携協定」を締結しましたが、この協定を受けて2024年9月にマレーシアのマラ工科大学ペナン校にて、法政大学・福岡工業大学・マラ工科大学ペナン校・マラン大学（インドネシア）の3か国4大学から計19名の学生が参加する約2

週間の海外研修「グローバルPBL」が実施されました。11月2日には法政大学理系同窓会ホームカミングデー2024にて、「法政理系学部におけるグローバル教育」と題して、大変僥越ながら1時間の講演をさせていただきましたが、主にこの海外研修の様子をご紹介させていただきました次第です。

法政大学では着任早々、理系コンソーシアム運営委員、SA (Study Abroad) 委員、理工学部国際化委員を仰せつかっており、同窓会の皆様のお世話になる機会が多いかと存じます。

法政大学から世界で活躍できる人材・技術者を輩出すべく、研究や教育に一層邁進してまいります。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



理工学部
機械工学科
准教授

小泉隆行

2024年4月より、理工学部機械工学科に着任いたしました小泉隆行と申します。私の専門分野は材料強度学であり、主に構造用金属材料の変形と強度に関する研究に従事しています。

近年、私が提案し、確立した新しい材料強度の評価指標「永久強度」は、構造材料の真の力学的特性を見える化する手法とし

て注目されています。従来の評価方法では捉えきれなかった材料特性を定量化し、鉄鋼材料をはじめとする様々な構造材料への適用を通じて、その有効性を明らかにしました。これらの成果が評価され、今年度「日本鉄鋼協会澤村論文賞」および「日本ばね学会論文賞」を受賞しました。

法政大学は、長い歴史と伝統を有し、教育と研究において豊かな環境が整っている素晴らしい学府です。これまでに多くの優秀な技術者・研究者を輩出してきたこの場で、皆様と共に新たな道を創出し、学生たちの成長を支えられることを大変嬉しく思います。

私自身、研究活動と教育の両面において全力を尽くしていく所存です。特に学生には、座学で得た知識を実践的な課題に応用

し、主体的に学び、問題解決能力を身につけてもらいたいと考えています。研究室では、材料強度評価の理論や実験に加え、データ解析技術やシミュレーションを活用した研究テーマを提供し、学生が実社会で役立つスキルを養う環境を目指します。

法政大学の学生たちが将来、産業界や学術界でリーダーシップを発揮し、持続可能な社会の実現に寄与できるよう、精一杯サポートしてまいります。また、産業界や卒業生の皆様との連携を通じて、教育と研究のさらなる充実を図り、社会に貢献できる成果を創出していきたくと考えています。今後とも、皆様のご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



理工学部
電気電子工学科
教授

藤澤 剛

2024年4月より理工学部電気電子工学科に教授として着任いたしました。同年3月までは、北海道大学情報科学研究院で准教授として、光通信、通信用光デバイスの研究を行っていました。法政大学でも、同様

の研究を続けています。

AIや機械学習の進展から、データセンタにおける電気の演算量とはどまることなく増加しており、それに伴う消費電力、通信容量の増大への要求は逼迫しています。従来、光通信は、比較的長距離の通信に用いられることが多かったのですが、現在は、先に述べた問題に対処するために、データセンタ等での短い距離にも光通信が用いられ始めています。そうした場所で用いられる光通信用機器は、よりサイズが小さく、より小さい消費電力で動作し、なおかつ、大容量の信号を取り扱うことが可能であることが求められます。こうした要求に応え

るために、半導体のシリコンを用いた超小型光集積回路、そしてそれらを自在に生み出す、機械学習設計技術の研究を行っています。特に、「モザイク素子」と呼ばれる特殊な素子を用いて、シリコンプラットフォームの物理限界に迫るような、超小型光素子の実現に挑んでいます。

法政大学では、こうした研究を通して学生を教育し、モノづくりの喜び、楽しさを教えながら、同時に研究を発展させていきたいと考えています。若輩者ではございますが、今後とも、ご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願ひいたします。



理工学部
創生科学科
専任講師

堤 瑛美子

2024年4月に創生科学科に着任いたしました堤瑛美子と申します。2023年3月に電気通信大学博士後期課程を卒業し、2023年4月から2024年3月まで東京大学情報理工学系研究科で人工知能と教育工学に関する研究をしておりました。

最近の教育現場では、小学生から大学生に至るまでコンピュータやタブレット端末を用いた学習がスタンダードになってきております。そこで注目されているのが、個人に最適な学習を提供する学習支援システムです。「苦手分野は何か」、「どれくらいの難易度の問題に挑戦すれば良いのか」など、個人のモチベーションや学習効率を考えて学習計画を組み立てる必要があります。私の研究では、深層学習を用いて学習者が過去に取り組んだ問題への行動履歴から未来の成長を予測することを目指しています。機械学習分野の研究では、予測精度の高い手法を開発するということが重視されがちですが、この研究では、ユーザーへ

の説明性を特に重視しています。学習者の理解度や問題の難易度を解釈できる値として求め、それを根拠として未来予測を行うことで、学習者自身が苦手分野を把握したり、教師が学習課題の見直しをすることにも役立ちます。つまり、機械学習の基礎理論と社会応用へのギャップを最小限にできるようなシステムの開発が大きな目標です。基礎と応用の両側面をもつ研究と教育は今後より一層社会から求められていくものと考えておりますので、未熟者ではございますが、研究活動と教育活動を通して法政大学へ貢献していきたいと思っております。ご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願ひいたします。



理工学部
創生科学科
准教授

山本晃輔

2024年4月より創生科学科に着任いたしました山本晃輔と申します。これまでは大阪産業大学で学習心理学や心理学概論の授業を担当し、教育と研究に従事して参りました。

私の専門は認知心理学で、特に匂い・香りが過去の記憶を呼び覚ますメカニズムについて研究を行っています。これまでの研究では、匂い・香りが記憶を呼び起こす強

力なトリガーであることを実験や調査を通じて実証してきました。最近では高齢者を対象にした研究を進めています。

日本は超高齢社会を迎え、2030年には約3人に1人が高齢者になると言われています。高齢者の心身の健康を支援することは、社会的にも重要な課題です。私たちの研究グループでは、匂い・香りが高齢者のポジティブな気分や主観的幸福感を高める効果を示す研究結果を発表しました。また、高齢になると認知能力の低下が見られ、嗅覚も60歳代から徐々に衰えることが知られています。この嗅覚の低下は認知症発症のバイオマーカーとしても注目されており、その予防が重要とされています。そこで最近では、高齢者の嗅覚能力を維持・向上させるための訓練法を開発し、その効果を検証する研究に取り組んでいます。将来

的には、医療や福祉の現場での応用を目指しています。

応用研究を進めるうえでは、他分野との連携が欠かせません。創生科学科には文理を問わず多様な専門分野の先生方がいらっしゃいます。この環境の中でご指導を頂きながら、さらなる学際的な共同研究を進めていきたいと考えています。

関西から東京への異動に際して不安もありましたが、先生方から「生活には慣れましたか？」や「初年度は大変だから無理せずに」など温かいお声がけをいただき、大変心強く感じています。これからも皆さまのご期待にお応えできるよう、微力ながら法政大学の発展に貢献してまいります。どうぞよろしく願いいたします。



情報科学部
デジタルメディア学科
教授

川畑史郎

2024年4月より情報科学部デジタルメディア学科に着任いたしました。2024年3月まで、産業技術総合研究所で副研究センター長として量子コンピュータの研究開発

とプロジェクト・組織マネジメントに従事しておりました。法政大学着任後も引き続き、量子コンピュータの研究開発をすすめております。

量子力学原理を利用した未来のコンピュータ「量子コンピュータ」に最近大きな注目が集められています。量子コンピュータを利用することで、因数分解、量子化学、機械学習、線形代数、物理シミュレーションなどの数学的問題を従来型コンピュータよりも高速に処理することが可能となります。そのため、実用レベルの大規模量子コンピュータが実現すれば、化学、創薬、人

工知能、材料、金融、セキュリティなどの幅広い産業分野において破壊的なインパクトをもたらされると期待されています。私の研究室においては、量子アルゴリズム、量子アプリケーション、量子コンピュータハードウェア、量子情報理論、量子ナノデバイスなどの研究を行い、研究成果を量子コンピュータの商用化・社会実装に繋げることを目指しています。法政大学では、情報科学の教育にも携わりながら、社会の最前線で活躍できる人材の輩出に貢献したいと考えています。どうぞよろしく願い致します。



デザイン工学部
建築学科
教授

南後由和

2024年10月よりデザイン工学部建築学科に着任しました。東京大学大学院情報学環助教、特任講師、明治大学情報コミュニケーション学部専任講師、准教授を務め、その間、デルフト工科大学、コロンビア大学GSAPP、UCLパトリック客員研究員と

して在外研究にも従事してきました。

専門は、社会学です。いわゆる文系から理系学部への転身ということもあり、これまでの研究・教育環境からの変化が大きく、新鮮で刺激的な日々を送っています。

従来の社会学では、主に建築物を「使う」ことに関する研究、建築学では、主に建築物を「つくる」ことに関する研究を重視する傾向があったのに対して、私はフランスの社会学者アンリ・ルフェーヴルの空間論に立脚しながら、双方の観点を架橋する研究に取り組んできました。また、スマートフォンやソーシャル・メディアの普及によって、建築および都市の「つくり方」と「使われ方」がどのように変化しているのかを明らかにするため、落書き/グ

ラフィティ、ショッピング・モール、ひとり空間などを対象としたフィールド調査を実施してきました。

建築の問題や可能性は、歴史、技術、芸術はもちろん、経済、政治、医療、福祉など、あらゆる領域に広がっています。法政大学では、社会学を軸とした学際的アプローチをもとに、建築の研究・教育の新たな枠組みを創出すべく精進する所存です。具体的には、建築物の社会的効果の指標、異分野への建築的思考の応用、出版物の編集や展示のキュレーション、建築の新たなメディア表現による専門家と非専門家の垣根を越えた情報伝達に関する研究などに取り組みたいと考えています。ご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしく願い申し上げます。

理系同窓会

理事 高橋 敏男
建築 1972年卒

〒362-0065 埼玉県上尾市畔吉1115番地2
TEL 090-5519-0011 FAX 048-773-3086

法政大学工体連OB・OG会

会長 土居 通明
理系同窓会理事
経営 1984年卒
ボクシング部OB会会長
工体連本部18代委員長



同窓会ホームページへ
お立ち寄りください

<http://133.25.196.100/index.php>
メールは hosei.rikei.alumni@gmail.com

中尾建設工業(株)

代表取締役 中尾 美佐男
建築 1982年卒

〒175-0083 板橋区徳丸4-11-2
TEL 03-3935-3311

理系同窓会

相談役 松谷 勝
電気 1971年卒

〒359-1146 所沢市小手指南6-14-9
TEL 04-2949-7388

法政大学

理工学部長 安田 彰
電気 1986年卒

〒184-8584 小金井市梶野町3-7-2
TEL 042-387-6385

活躍するOB・OG

中野久松名誉教授の瑞宝中綬章受章
を祝う講演会と祝賀会が
盛大に開催されました

電気電子工学科

本学電気電子工学科で2015年度まで教授を務め、現在も大学院特定課題研究所である電磁波工学研究所にて研究を続けられている中野久松名誉教授が、このたび瑞宝中綬章を受章されました。

本ご受章は米国電気電子学会 (IEEE) のアンテナ伝搬マガジンにも Professor Hisamatsu Nakano Receives "The Order of the Sacred Treasure, Gold Rays with Neck Ribbon," from the Government of Japan と紹介されました。この喜ばしい出来事を祝い、2024年3月30日に小金井キャンパスで講演会と祝賀会が行われました。

中野名誉教授はアンテナ工学の分野で世界的に知られた存在です。特に、スパイラルアンテナやヘリカルアンテナの研究では大きな成果を上げられ、その業績が評価されて1992年、40代という若さで IEEE Fellow に推挙されました。これらのアンテナは実用化され、今では衛星放送などで広く活用されています。最近では、自然界には存在しない特異な性質を持つ「メタアンテナ」の研究に取り組まれており、この分野でも最前線で活躍されています。この間、517名の学生を指導し、修士198名、博士13名(日本9、米英4)を輩出されました。学術論文は370件以上

を発表、著書も11冊出版されるなど、まさに圧倒的な成果をお持ちです。大学内でも工学部長など要職を歴任され、幅広く貢献されました。

講演会には、来賓の方々や研究室の卒業生、学科教員など約100名が集まりました。中野名誉教授は最新のメタアンテナ研究について熱のこもった講演をされ、会場は感嘆の声に包まれました。その後の祝賀会では、伊藤一之理工学部長や村主康和理系同窓会会長、斎藤利通教授(学科教員代表)からの祝辞が贈られました。祝賀会に続く中野研究室親睦会では、研究室第一期生であり2023年度まで教授を務められた山内潤治名誉教授からお祝いの挨拶がありました。卒業生同士も久しぶりの再会を楽しみ、中野名誉教授を囲んで活発な交流が続きました。お祝いのスピーチや多くの祝電も寄せられ、会場は終始、温かい雰囲気になっていました。

最後に、中野名誉教授からご挨拶があり、「これからも新しい挑戦を続けていきたい」との力強いお言葉で締めくくられました。この日集まった多くの方々にとって、心温まる素晴らしいひとときとなりました。

中野久松名誉教授の瑞宝中綬章ご受章は、私たち電気電子工学科の同窓会にとっても大きな誇りであり、喜びです。これまでの数々のご功績



瑞宝中綬章記念撮影



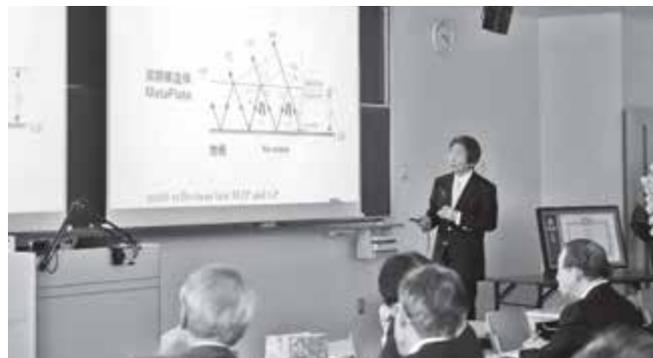
瑞宝中綬章

が、このような形で広く認められたことに、心から敬意を表します。中野名誉教授が引き続きご研究を通じて新たな挑戦を続けられることを期待し、そのご活躍がさらなる未来を切り拓いていくことを信じております。重ねて、ご受章を心よりお祝い申し上げます。

(文責：電気電子工学科・教授 柴山純)



卒業生田邊正宏博士氏からの花束贈呈



記念講演を行う中野久松名誉教授

理系同窓会

理事 山川 宏明

土木 1984年卒

西武建設(株) 取締役常務執行役員 土木事業部長
〒359-8550 埼玉県所沢市くすのき台1-11-1
TEL 04-2926-3359

理系同窓会

事務局長 吉田 一朗

〒184-8584 小金井市梶野町3-7-2
法政大学 理工学部 機械工学科 吉田一朗研究室
機械工学専修・航空操縦学専修 教授
TEL 042-387-6111





80TH
おかげさまで80周年

私たちがつなぐもの

それは、だれかの安心、だれかの笑顔、だれかの願いだから、
あたりまえの日常を、ささえつづけるために
つなごう、想いを、明日を。

ひとりひとりが、未来を灯す。

KANDENKO

〒108-8533 東京都港区芝浦4丁目8番33号 <https://www.kandenko.co.jp/>

株式会社ジェイテクトエレクトロニクス
JTEKT ELECTRONICS CORPORATION

JTEKT

JTEKT ELECTRONICS CORPORATION

「誰かの仕事」をもっと「楽」に！

「モノを造る・動かす」に関する
「お困りごと・ニーズ」に対して、地に足の着いた解決策をお届けし、
誰かの仕事をもっと楽にする。

PLC 超小型～高機能型 安全PLC 周辺機器	HMI パネルコンピュータ プログラマブル表示器	B-77ECONO-Z インクリメンタル形 アプソリュート形	電検製品 車載用トルクセンサ 車載用コントローラ
近接センサ 円柱形 角形 静電容量形	光電センサ(A11+製品) レーザーセンサ レーザーセンサ タワーライト	その他製品 ソフトウェア	

業務内容 ハードウェア (回路設計、機構設計) 開発
ソフトウェア開発
製造設備設計

創業 1955年11月
設立 1959年3月
資本金 159,320万円
本社 東京都小平市天神町4-9-1
大泉工場 山梨県北杜市大泉町西井出1230-1
刈谷事業場 愛知県刈谷市朝日町一丁目1番地
(株式会社ジェイテクト内)
営業拠点 東京・愛知・大阪
海外拠点 北米・中国・台湾・インド
従業員数 481名 (国内 2024/12現在)
1,222名 (グループ全体)

ご連絡は下記メールまたはLINEでお願いします。
jinji@electronics.jtekt.co.jp

ジェイテクトエレクトロニクスは、小平市にある
産業機器・自動車用部品の製造メーカーです。

LINE



採用ページ



窓



法匠会報

法政大学 デザイン工学部 建築学科 同窓会会報

第57号 2025年3月1日

発行所 〒184-8584
東京都小金井市梶野町 3-7-2
振替口座 00110-5-89264
TEL・FAX (042) 387-6385
法政大学デザイン工学部建築学科同窓会
発行人 松尾 秀文
編集人 会報編集委員会

デザイン工学部建築学科同窓会『法匠会』2024年活動

2024年(1~12月)の法匠会の様子を主要な活動で振り返り報告いたします。法匠会が大学・在学生・卒業生とのより活発な交流の場となるための試行・実践の1年であったと思います。活動詳細は、広報活動の一環であるHP<法匠会|法政大学建築学科同窓会(sakura.ne.jp)>にてここで割愛しました情報も含めご覧いただけます。

1月

●23日、コロナ禍でしばらく途絶えていた新年会がポアソナータワー25階スタッフクラブにて行われました。現役の先生、在学生にも参加いただき楽しい会となりました。



3月

●16日、対面講評・聴講のコロナ禍以前の形式にて第20回大江宏賞公開講評審査会が開催されました。熱をおびた審査・講評と的確な質疑応答を経て、リサーチからデザインへの説得性・洞察力が評価され竹山周作さんの作品が栄冠を獲得しました。例年に増して受賞案選定に審査員が悩みはてるほど密度の高い秀作7案が、多くの感慨を与える講評会でした。



6月

●22日、自由学園明日館にて大江宏賞受賞者へのメダル授与式を行いました。賞創設メンバーから前年度受賞者までの幅広い年齢層が集い受賞をあらためて祝いました。エントリーした方々の近況報告を交え懇親の場ともなりました。



9月

●26~29日、第27回法匠展50^{※1}を開催しました。教員・卒業生の20作品のほか、大江宏賞受賞作の展示、71年卒の小島建一さんのバリ建築旅行のギャラリートークなど多様な文化祭のようなアート展となりました。加えて、法匠祭<学生による建築設計作品展>^{※2}も同時開催され、16作品+4研究室の展示を通じて在学生と卒業生が交歓する盛況な企画となりました。



※1



※2

見学会・その他

●月刊建築ジャーナル11月号「実測で学ぶ 法政大学小堀研究室と4つの大江宏建築」が刊行されました。卒業生・在学生らによる対談、寄稿が掲載されています。遺された大江宏建築が在学生の学びの対象となっている様子が垣間見られます。



●法匠会HP開設以来続いているリレーエッセイは今年も12回の掲載を積み上げました。個々のエッセイの面白さが卒業生の魅力的な今を伝えています。法匠会の活動の原動力を表象するHPのコーナーです。



窓



都市環境デザイン工学科 12月の社会工学セミナーで

都市環境デザイン工学科 『法土会』2024年度活動報告

昨年度より『法土会』の会報は、ペーパーによる配信をやめ、「法政大学デザイン工学部都市環境デザイン工学科」のホームページの『同窓会』欄に掲載させていただいております。

https://civil.ws.hosei.ac.jp/wp/shinro_tokuchou/alumni_association
(2024年3月発行)

今年度も同様にホームページでの会報発行を行いますので、閲覧のほどよろしくお願ひします。また、法土会のメーリングリストに登録されている同窓生にはメールでの配信も行っておりますので、まだの方はメール登録を御願ひ申し上げます。

法土会同窓会の活動は、例年同様、活発に行われましたのでご報告します。

主な活動として、6月11日(火)に**学科教授と法土会理事との意見交換会**で年度計画を協議し活動方針を決定しました。2回の理事会を経て10月10日(木)の午後に**キャリアデザインセミナー「第13回卒業生と学生との意見交換会」**を開催しました。学生の進学や就職等の進路検討の一助となるよう、授業一環として「第一部」はパネルディスカッション。

第二部では業種別に70企業・団体、総勢

130名の卒業生と、現役学生が個別意見交換を行い有意義な時間を過ごしました。夕方には卒業生と大学院生も交わり地下食堂にて懇親会を盛大に開催いたしました。

12月2日(月)には、卒業生と大学・学生との情報交換ならびに意見交流を目的とした**社会工学セミナー**を開催(対面+リモート)しました。大学からは福井恒明教授がイタリア在外研究報告として「**イタリアのインフラと歴史文化**」を、また卒業生からは、ライト工業(株)専務執行役員の宝輪洋一様(1979年卒)による「**建設業における外国人雇用制度**」をご講演いただきました。

今後の活動として、卒業式に配布してきた冊子「卒業生に贈る」の編集作業を予定しています。引き続き、卒業生、学部、学科教授と一体となり活動を続けていく所存です。よろしくお願いいたします。

山川 宏明 (土84)

創生科学科

創生科学科では、長いあいだ学科に貢献された3人の先生が2024年度限りで退職されます。梨本邦直先生、福澤レベッカ先生、元木淳子先生です。

梨本先生はアイルランド語の言語学の専門

家です。法政大学工学部・理工学部では、SA(Study Abroad)プログラムによるアイルランド国立リムリック大学への学生派遣や、TOEICによる習熟度別英語教育の導入などの功績があります。2019年度には創生科学科の学科主任を務めていただきました。

福澤先生は教育文化人類学を専門とされています。法政大学工学部・理工学部では、工学部教授会副主任、ESOP(交換留学生受入れプログラム)ディレクター、KLAC(小金井リベラルアーツセンター)副センター長などを務めていただきました。

元木先生はフランス語で書かれた現代アフリカ文学を対象とした研究をされて来ました。法政大学工学部・理工学部では、KLAC副センター長、KLAC諸語分科会代表などを務めていただきました。

3人の先生には創生科学科のゼミを担当していただき、多数の学生を育てていただきました。これまで本当にありがとうございました。

2025年度からは創生科学科の教員は3名減って15人体制(+教務助手1名)となります。戦力ダウンとなりますが、最近学科に加わった若手の教員が中心になって学科を盛り上げてくれています。4月にはデザインを一新した新しい学科Webサイトが公開されます。どうぞご期待ください。

金沢 誠 (2024年度創生科学科主任)

理系同窓会 2023年度 褒賞授与者一覧 (2024年3月10日)

学部・学科		氏名	卒論テーマ
理工学部	機械工学科	伊藤海音	「超小型探査機用多層断熱材に対するメテオロイド衝突の数値解析」
		光藤貴尚	なし
	電気電子工学科	柴田拓海	「ソフトウェア無線受信機に適した偶高調波ミキサ付き $\Delta\Sigma$ ADCの提案」
		北野梨帆	「フェーズドアレイ送電コイルを用いた磁界共鳴式無線給電による金属異物発熱を考慮した高効率伝送の実験的検証」
	応用情報工学科	野尻明里	「SoundNet モデルを用いた音楽ジャンルと作曲家の特徴分析」
	経営システム工学科	宮本美月	「文章からの質問生成に対する画像質問応答ベースの評価指標」
		櫻井豪暉	「成績と前年度年俵を考慮したプロ野球選手の年俵のベイズ予測」
牧田章宏		「階層ベイズ状態空間モデルを用いた COVID-19 が及ぼした国内小売販売額への影響」	
創生科学科	加藤太陽	「パーソナリティの自己評価と他者評価の関連性について - 因子分析による新しい因子の抽出と相性の分析 -」	
	富島拓海	「地方の観光施設経営における統計的因果推論適用検討」	
生命科学部	生命機能学科	若林丈人	コレラ流行株において、コレラ毒素をコードしている遺伝領域の有無によるコレラ菌ゲノムの変化
		小野由花乃	相同組換えによるファージ溶原化に伴う宿主ゲノム大規模再編成
	環境応用化学科	右田茉莉	シンナモイル基およびトリエチレングリコール鎖を含む両親媒性ブロック共重合体の合成と表面特性
	応用植物科学科	宇野憧斗	沈降静水圧測定法を用いた粒子分散性評価の一般化に関する研究
	遠藤桜菜	地表徘徊性生物を用いた生態系調査による教育法の提案	
	佐藤潤苑	菌根菌共生によるミヤコグサの高温耐性向上	
情報科学部	コンピュータ科学科	小林光乃佑	歩行者の行動の特徴に応じたモデルを用いた歩行者の軌跡予測
		磯永菜香	ミリ波レーダーを用いた心拍・呼吸信号によるドライバーの眠気検知
	デジタルメディア学科	小池優太郎	曲線近傍を移動する視点から見えるステレオ自由視点画像の高速生成
デザイン工学部	建築学科	水口琳南	牌の種類に適應した畳み込みニューラルネットワークを用いた麻雀 AI プレイの作成
		吉田拓真	都市型遊園地・テーマパークの開園と閉園による地域との境界線の変容
		伊藤隆	子安浜における水辺拡張空間の応用可能性
	都市環境デザイン工学科	新井奏音	東京都大田区における地域史料の活用と地域史共有の実態分析
	システムデザイン学科	石井莉子	フィレットを有する面内ガセット溶接継手の疲労強度に関する一考察
	伊藤大智	アントレプレナーシップ教育において出店型起業家教育が及ぼす効果	
	末吉舞子	無意識の行動からくる二次的機能に注目したバッグデザインの提案	

会費一括納入者 (敬称略)

終身会費納入にご協力いただきました。
ご芳名を掲載して感謝を表します。

- 山口 和久 (計測88)
- 阿部 直美 (建築75)
- 富田 宏行 (電気86)
- 山辺 豊彦 (建築69)
- 山辺 郁代 (建築69)
- 小林 清文 (建築78)
- 岸 良宏 (経営78)
- 鷗野 憲一 (土木81)
- 齋藤 潔樹 (土木81)
- 松谷 勝 (電気71)
- 牧田 健一 (計測73)

寄付者ご芳名 (敬称略)

2024年12月17日現在、次の方々からご寄付を寄せていただきました。
皆様方の変わらぬご支援とご協力に感謝し、厚く御礼申し上げます。

- 10口
 - 東 孝司 (経営63)
 - 山下 幸光 (機械71)
 - 白井 五郎 (電気65)
 - 上野山 進 (建築70)
 - 増茂 孝 (経営79)
- 6口
 - 渡邊 秋満 (電気79)
 - 岡田 一男 (電気72)
 - 古山 弘 (土木74)
 - 小浜修一郎 (土木64)
 - 小木 佐市 (機械64)
 - 樫山 勝利 (経営66)
 - 長沼 有 (電気61)
 - 大塚 元章 (電気62)
 - 藤田 隆雄 (土木75)
- 5口
 - 郷野 正臣 (経営67)
- 4口
 - 宮澤 博行 (経営90)
 - 佐藤 英夫 (土木69)
- 3口
 - 茅屋 公雄 (建築81)
 - 五十嵐 哲矢 (機械74)
 - 栗山 周志 (電気63)
 - 松澤 敏彦 (建築70)
 - 岸 良宏 (経営78)
 - 大八木 勇夫 (経営67)
- 2口
 - 久保 三男 (土木77)
 - 箱崎 泰弘 (建築70)
- 1口
 - 青木 富美男 (機械80)
 - 高塚 敏明 (機械86)
 - 平瀬 宏 (電気62)
- 鈴木 明彦 (経営76)
- 秋山 武 (電気61)
- 溝田 和裕 (計測78)
- 山家 信雄 (機械89)
- 丸尾 茂樹 (土木68)
- 河原 勉 (経営67)
- 澤田 秀樹 (建築84)
- 多田 昭洋 (電気66)
- 羽深 政則 (機械79)
- 有澤 廣久 (経営72)
- 内村 隆一 (計測74)
- 溝上 和紀 (計測75)
- 岸田 正幸 (計測82)
- 飯島 彰史 (計測95)
- 石井 直樹 (物質2009)

教員異動

●新任教員 (2024年4月1日～)

- 理工学部機械工学科 加藤 友規教授
- 理工学部機械工学科 小泉 隆行准教授
- 理工学部電気電子工学科 藤澤 剛教授
- 理工学部創生科学科 堤 瑛美子専任講師
- 理工学部創生科学科 山本 晃輔准教授
- 情報科学部デジタルメディア学科 川畑 史郎教授
- デザイン工学部建築学科 南後 由和教授

2023年度 理系同窓会収支決算書

収入の部				支出の部			
2024年3月31日				2024年3月31日			
科目	費目	2023年度予算	収支累計額	科目	費目	2022年度予算	収支累計額
会費	年会費	2,000,000	1,452,000	事務	印刷費	50,000	176,940
	特別終身会費	100,000	500,000		一般事務用品	50,000	49,782
寄付金	一般寄付	100,000	206,000		事務機具	20,000	25,887
広告会合	会報	500,000	420,000	事務嘱託	嘱託費	900,000	509,860
	役員会・懇談会等	0	0		出張費	0	0
事業費	ホームカミングデー参加費/他	700,000		通信	会報等郵送料	450,000	319,490
名簿・資産運用	受け取り利息	0	4		集金手数料	50,000	71,471
雑収入	祝儀他	100,000	150,000	各同窓会	還付金	400,000	290,400
	2021年度繰越金	0	3,243,239		地域同窓会	50,000	0
校友会	還付金	0	224,000	育英	卒業記念品等	110,000	431,750
積立金等より	終身会費より	0	0	出版	会報印刷代	400,000	358,600
①合計		3,500,000	6,195,243		会報編集費	0	0
				事業費	ホームカミングデー参加費/他	700,000	91,024
				会合	役員会・懇談会等	100,000	71,560
				渉外	慶弔交際費	120,000	45,000
				予備	同窓会室使用料他	0	0
				終身会費積立金		100,000	500,000
				②合計		3,500,000	2,941,764

2023年度 会務監査報告書

2023年4月21日法政大学理系同窓会室に於いて会則16条に基づき
会務全般にわたり監査した結果、事業も予定通り遂行され、会計
収支の取り扱いも適正に処理されていることを報告します。

監事 川上忠重 ㊞

③現在収支残 ①-②

3,253,479

住所変更は必ずご連絡ください!!

住所が変わられた方は必ずいずれかの方法で同窓会まで
ご連絡ください。

- ①電話もしくはFAXにて
同窓会事務所 TEL/FAX 042-387-6385
- ②メールの場合
E-Mail : hosei.rikei.alumni@gmail.com

理系同窓会の運営は会員の方の会費で行っております。
同封の払込取扱票にて年会費をお支払い願います (終身会員を除く)。
また終身会員への変更、ご寄付など随時承っております。
終身会員の方にも振込用紙が同封されていますが、ご寄付の際ご利用ください。

郵便振替口座 001105-89264

●ご不明な点はお問い合わせください。●

〒184-8584 東京都小金井市梶野町3-7-2
法政大学理系同窓会事務局

編集後記

能登半島地震から1年以上経過しましたが、復旧の道はまだまだ遠く、復旧真っ只中の9月には豪雨災害の発生もありました。被災された方々が一日も早く通常の生活に戻るよう祈念いたします。

日本も世界情勢も、めまぐるしく変化しています。わが国では石破新総理と少数与党政権、アメリカでは、トランプ大統領の返り咲きによるアメリカファースト。私たちがこの時代の変化にスピード感をもって対応していかなければなりません。しかし、私個人的には、トランプ大統領の無謀と思える次々と発言や大統領令の署名はいかかかなものかと思ってしまう。

さて、私ごとですが、新年早々からインフルエンザの流行に捕まってしまいました。幸いにも、予防接種と新薬「ゾフルーザ錠」のおかげにより、1日で熱は下がりました。予防措置の大切さを痛感した年初めでした。

広報担当 土木 (都市環境デザイン) 工学科 1984年卒
山川 宏明